

研究課題名	テノン組織上のインテグリン発現の研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科視覚病態学 准教授 近間 泰一郎
研究期間	許可日 ~ 2027年 3月31日
対象者	2023年3月から2025年3月の間に、広島大学病院眼科で外眼筋短縮術を受けられた際にテノン組織を切除した患者さん
意義・目的	緑内障に対する濾過手術において、テノン組織の線維化は術後経過を悪化させます。線維化過程において、肝臓や肺などではインテグリン発現による線維形成が報告されていますが、眼においてインテグリンの発現は報告されていません。眼科手術で廃棄する予定のテノン組織を用いて、テノン組織上にインテグリンあるかを確認することで、今後の緑内障治療に役立つ可能性があります。
方法	<p>本研究は、手術時に除去したテノン組織を使用します。外眼筋短縮手術を行った際に、外眼筋周囲のテノン組織が残っていると結膜上に盛り上がりが出てしまい、美容上不具合があるため、通常余分なものは除去し、医療廃棄物として廃棄します。そこで廃棄予定のテノン組織上にインテグリンの発現がないかを確認します。</p> <p>取得した試料は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。</p> <p>利用開始予定日：実施許可日（2023年3月3日）以降</p>
共同研究機関	ありません（広島大学単独研究のため、本研究で他の機関へ情報の提供は行いません）
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科視覚病態学 准教授 近間 泰一郎
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に試料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3</p> <p>T e l : 082-257-5247</p> <p>広島大学病院 眼科 准教授 近間 泰一郎 医師 小松 香織</p>